

1-3. 受託調査研究

④(2) 造園緑化技術に係る海外展開の実態把握及び今後の展開方策に関する調査

委託者：国土交通省都市局公園緑地・景観課

1. 目的

我が国の造園緑化技術は、日本庭園をはじめとする伝統と、そこから発展した屋上・壁面緑化技術等の先進性を有しており、海外の都市開発においても良好な都市環境の形成の観点からその活用が期待されているところであるが、これまでに海外展開がどの程度なされ、また、国内外から今後どのような展開が見込まれているのか、その実態は十分に把握できていない。

そのような中で、世界各国から都市緑化等に携わる関係者が集まる場である国際園芸博覧会は、我が国の有する高度な造園緑化技術を諸外国にアピールする絶好の機会となっている。このため、これまでに開催された同博覧会における出展内容や、それらに対する評価の状況、造園産業に関わる事業者が持つ造園緑化技術の海外展開に関する情報や今後の展開に対する期待等を把握・分析することで、今後の効果的な海外展開方策を検討することができる。

以上を踏まえ、本業務は、過去の国際園芸博覧会への出展実績とその効果及び我が国の造園緑化技術の海外展開の実態等を把握し、造園緑化産業の振興の観点から、今後開催される国際園芸博覧会への効果的な出展方法を含めた、今後の海外展開方策を検討することを目的とした。

2. 業務の概要

(1) 我が国の造園緑化技術の海外展開の実態把握

国内の造園産業に係る事業者へのヒアリング等を通じて、我が国の造園緑化技術の海外展開の現状と、今後の展開が見込まれている技術等の実態把握を行った。また、民間による国際園芸博覧会への出展の意向について調査を行った。

(2) 過去の国際園芸博覧会の出展実績の整理

過去に我が国から日本庭園を出展した実績（国土交通省の出展は屋内出展も含む）のある国際園芸博覧会について、各博覧会の基本情報（名称、歴史、性格、会期、面積、主催者、入場者数等）及び日本庭園等の出展に関する基本情報（出展経緯、主体、内容、規模、予算、工期、集客状況等）を把握・整理する。特に、国土交通省として政府出展した直近の5回の国際園芸博覧会（1999年の中国・昆明、2002年のオランダ・ハールレマミア、2003年のドイツ・ロストック、2006年のタイ・チェンマイ、2012年のオランダ・フェンロー）について、各国の出展内容、出展を行った当時の現地の反応や評価、博覧会後の対応等を整理し、特に造園緑化技術に係る出展の効果と課題を分析した。

(3) 今後の海外展開方策の検討

(1)及び(2)を踏まえ、造園緑化技術の海外展開による造園緑化産業の振興の観点から、国際園芸博覧会における効果的な出展方策（内容、予算確保方策等）を含む今後の海外展開方策について検討を行った。